



高齢ドライバーの安全運転のポイント（1）

高齢化社会に伴い、運転もまだまだ現役でご活躍中のシニアが増えています。そこで今月から2回にわたって、高齢ドライバーの安全運転のポイントをご紹介します。

安全運転でフォーエバー・ヤング

長寿国ニッポンでは、「まだまだ若い者には負けない!」と高齢者が様々な場面で活躍しています。道路交通シーンでも高齢者の数は年々増加し、レジャーに買い物にと日常生活の中での車の利用も増えています。

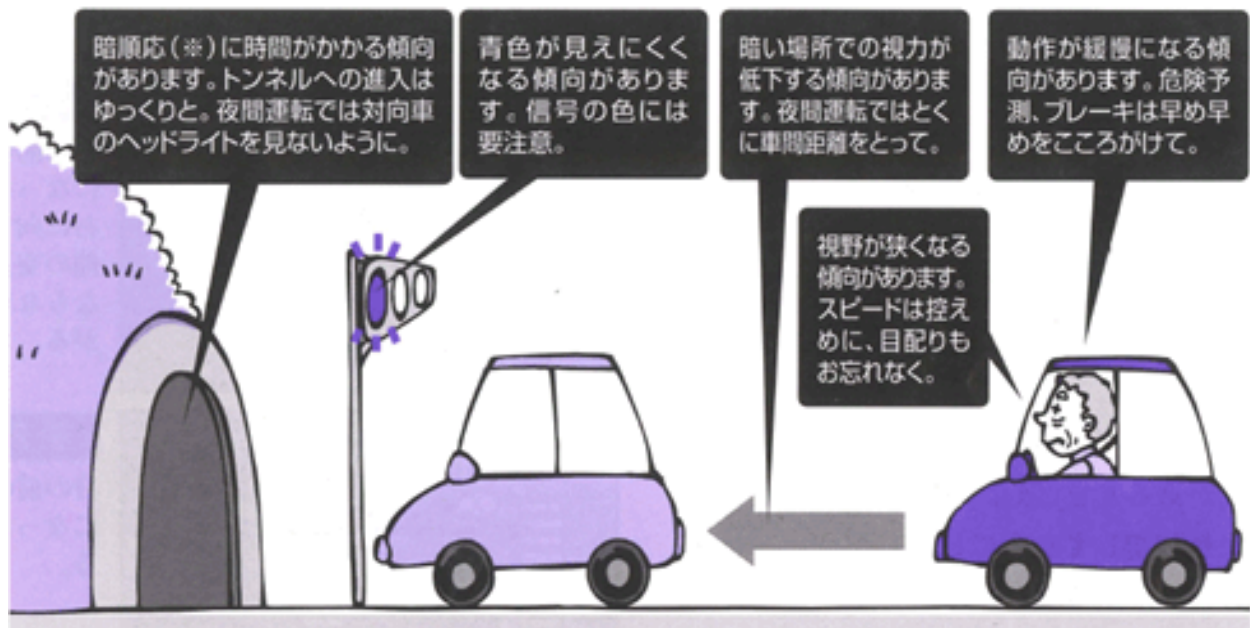
一方、それに伴い、高齢者による交通事故が増加してきています。日常生活の中で、自分ではあまり意識することがなくても、安全運転に欠かせない身体機能は年齢とともに変化していきます。

そこで今回は、高齢ドライバーが運転する際に、安全にハンドルを握るポイントについて紹介します。



身体機能・運転特性に応じた運転をしよう

身体機能に応じた運転を



※ 暗順応：明るいところから暗いところへ移動した際に、弱い光でもとらえられるように感度を調整する人間の機能。

※ 身体機能・運転特性には個人差があり、一概には言えない場合もあります。

運転特性に応じた運転を

同じ道路を走っていても「ここは安全だ」と漫然運転せず、常に緊張感を持って。

車間距離を詰めたり、無理にスピードを出すなど危険な運転はやめましょう。

夕方は早めにヘッドライトを点灯するなど、他車から視認されやすくすることが大切です。

標識の意味や安全な運転操作方法といった知識の習得に努めましょう。



右折時などの危険パターンをよく頭に入れ、素早く、確実な安全確認を。

次回は高齢ドライバーの「原動機付自転車を安全に乗るコツ」をお送りします。

(2010年3月作成)